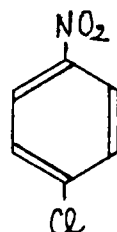


p-クロロニトロベンゼンの分解度試験成績報告書

1. 試験期間 昭和50年4月22日～昭和50年5月17日
2. 試料名 p-クロロニトロベンゼン (試料No K-75)
- 分子式 $C_6H_4ClNO_2$

構造式



3. 試験方法及び条件

環 保 業 第 5 号
 薬 発 第 6 / 5 号 } 微生物等による化学物質の分解度試験による
 49基局第392号

ただし 試料濃度 30ppm に対し 汚泥濃度 30ppm 及び 100ppm

3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機

3.2 酸素消費量測定

3.1 の記録による

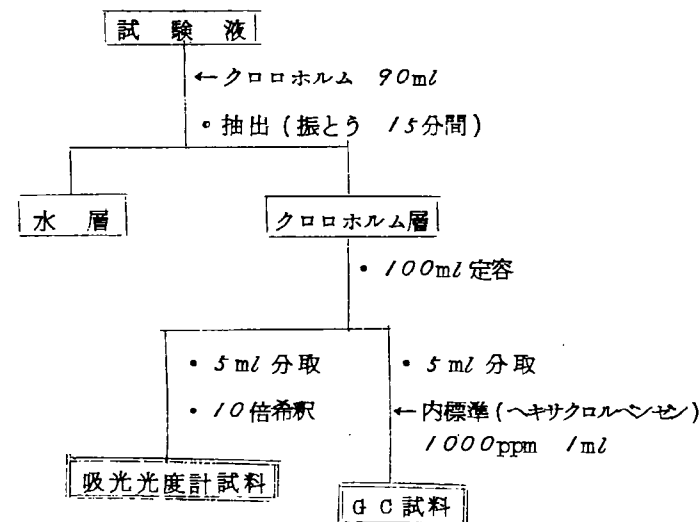
3.3 生分解試験後の直接定量法

(a) 使用分析機器

ガスクロマトグラフ 検出器 FID

紫外可視自記分光光度計

(b) 分析試料の前処理



(c) 分析条件

ガスクロマトグラフ (GC) 検出器 FID

キャリアガス N_2

充てん剤 20% PEG-20M クロモソルブ W

ガラスカラム 2mmφ×2m

カラム温度 120℃～150℃ 昇温速度 12分間保持
3℃/min

紫外可視自記分光光度計 (吸光光度計)

波 長 240nm～370nm

スリット幅 4nm

使用セル 石英セル 10mm×10mm

4. 試験結果 { A 汚泥濃度 30ppm 試料濃度 30ppm
B 汚泥濃度 100ppm 試料濃度 30ppm

		分解度 (%)	付 図	付 表
A	酸素消費量による結果	25.6	1	—
	G C による結果	3.0	2	1
	吸光光度計による結果	0	3, 4	2
B	酸素消費量による結果	0	5	—
	G C による結果	4.6	6	3
	吸光光度計による結果	4.2	3, 7	4

5. そ の 他

クーロメーターの酸素吸収曲線の気圧変化による乱れが多く
これによる分解度の値は参考値として考慮していただきたい。

14日後酸素吸収曲線も少し変化しつつあったのでしばらく
追尾したが変化がないため分析にふみきつた。

以 上